



感動のそばに、いつも。

“共創による『食育』課題解決”事例

『食育パーパス』 JTBは、人と地域の交流を通じて、土地に根ざした食・食材・産業の魅力伝え、世代を超えて“食”の価値と学びを育む社会の創造を目指します。

株式会社JTB

事例1.【アサヒビール x 青森県弘前市】

援農をテーマにした取組『ひろさき縁農プロジェクト』
～弘前市のりんご産業支援を通じた地域活性化を目指して～

企業と地域が紡ぐ、大人の食育ストーリー

2025年度
開催決定！

テーマ

企業課題 x 農家支援 x 地域貢献

事業概要

企業版ふるさと納税の取り組みを通じて、アサヒビールの製品「ニッカシードル」の原料であるりんごの生産地、弘前市の課題解決に取り組んでいる事例です。

現在においても日本一大りんご生産地である弘前ですが、

・生産者の高齢化 ・後継者不足

の波が押し寄せ、人手不足が現在非常に大きな課題になっています。そこで企業版ふるさと納税の仕組みを活かし、本当に人手が欲しい農家への補助労働力支援、本当の意味での『縁農プロジェクト』を立ち上げました。弘前市、また弘前りんごを使ったシードル生産工場NIKKA弘前工場、シードルメーカーであるアサヒビールと、これまでにない産官連携の援農ボランティアツアーを実施いたします。

補助労働力確保の取組を通じて、弘前リンゴのファン拡大や、生産者の方とのエンゲージメントを高める事、さらには関係人口拡大への寄与にも繋がっていくことを目指します。

二冠 受賞！

内閣府 企業版ふるさと納税に係る大臣賞
農林水産省 ディスカバー農山漁村の宝award



アサヒビール
ニッカ
ウヰスキー

JTB

青森県弘前市

農家



双方の求める価値をマッチング

事例2.『Kidsジョブチャレンジ』で“三方よし”の実現

まさに“みんながHAPPY”
リアルな職業体験・経済体験による産官学一体化

一次産業のリアルに触れ、命と食を見つめなす、
親子で育む“食育の時間”

2025年度
開催決定！

テーマ

企業課題 x SDGs x 探究学習

事業概要

「観光」目的で来訪するファミリー層と「キャリア教育」を体験する子供たち。そして「商工」はプログラム提供する第1次から第3次産業までの受入事業者。誘客&シティブロモーションに繋がる自治体。加えて「観光」「教育」「商工」の三要素がベストミックスされ、来場者、受入事業者、地域自治体の三者間が【三方良し】となることが本事業の最大の特徴です。

単なる一過性のワークショップイベントではなく地域の「観光・商工・教育」が一体となって第1・2・3次の全産業を網羅し

リアルな職業理解体験から経済体験までをご提供。

JTBとしては営業展開から地域資源の企画開発、PR、運営、アウトプットの提供、そして効果検証まで持続性のあるワンストップサービスを提供しました。

2025年11月の高槻開催（エイチ・ツー・オー リテイリング様共創事業）においては、食育をテーマとしたプログラムを実施予定。



出展
事業者

来場者

JTB

開催
自治体

双方の求める価値をマッチング

住んでよし・働いてよし・訪れてよし

事例3. 大手食品メーカーA社×B社×鎌倉市 x ○○寺 x 小学校

『大豆のチカラプロジェクト』

共通課題をもった企業と小学校、地域を巻き込み、
を通じ社会課題解決に貢献！

大豆を通じて、社会の課題と“食”の本質に向き合う“トキ”

テーマ

企業課題 x SDGs x 探究学習

事業概要

醤油・油はそれぞれ大豆が原料という共通点があり、大手食品メーカーA社&B社はビジネスの枠を超え、かねてより親しい間柄です。この2社がタッグを組み、食を通じて社会課題解決に貢献した事例です。

「人生100年時代を生きる児童様へ、早期から栄養バランスの重要性やおいしさと健康の関連性を伝えると共に、健康的な生活を送る基礎となる知識を得る・考える機会を提供する。」という目的のため、

児童様が実際に2社がつくった“食育体験”（実習体験）を通じ「おいしさ体験」から食事バランスを学び、その取組・経験をもとに、保護者・家庭内へ波及、次いで地域へ展開し、大人へも情報の伝達を図りました。

食品メーカー
K様

食品メーカー
N様

JTB

鎌倉市
民間事業者

鎌倉市の
小学校

